

# 日本サッカー協会（埼玉スタジアム2002等）

日本サッカー協会（JFA）では、日本代表戦などの試合でセンサリールームを設置し、感覚過敏のある子どもを招待する取組みを実施しています。

令和3年10月12日に”埼玉スタジアム2002”で行われた日本代表戦においてもセンサリールームを設置し、県内在住の4家族を招待しました。

## 取組の内容

### 【目的】

SDGs（持続可能な開発目標）の理念である“誰一人取り残さない”社会を実現するに当たり、誰もが観戦できる環境づくりを行う。

### 【取組の概要】

休店中のレストランを活用し、音や光に過敏な子どもが楽しんで観戦できるセンサリールームを設置。部屋には気持ちを落ち着けるグッズを用意。

また、先が見通せないと不安になる子どものために、事前に、当日の流れを写真入りで示したしおりを配布するなどの工夫も行っている。



## 取組の効果・課題など

○その特性から、普段サッカー観戦ができない子どもやその家族が、安心してサッカーを観戦することができる。

○取組みを通じて、ファンのすそ野を広げることができる。

○今後は、センサリールームを常設するために、場所の確保等をどのようにしていくかという課題がある。

